

久しぶりの温かいご飯に笑顔が広がる。左は渋谷料長。同2人目は渋谷優料理担当



東大雪莊

三

強いられており、渋谷料理担当（31）長と渋谷優料理担当（31）が「食」で元気つけたいと、炊き出し企画した。

小学校の調理室に入り、約4時間かけて鶏肉のシヨウガ焼き、エビマリネ、野菜サラダ、きんぴらゴボウ、サンマ煮付け、すいとん汁など30食分を用意した。

（60代）は「久しぶりに温かい白いご飯を食べさせてもらい、元気が沸いた」と感謝していた。自宅が市街地にあり、自身も同日に避

「早くまちが元気になつてほしい」と願つていた。  
2人は5日から、災害復興に関わる自衛隊員やボランティアに昼食を作ることになつてゐる。(小寺泰介)

清水から流される  
芽室町内の芽室橋付  
近の芽室川河川敷で、台風  
による増水で上流から流さ  
れてきたとみられる乳牛1  
頭が見つかった。清水町内



台風10号による大雨災害では、十勝管内で最大13市町村の住民7,000人超が近くの学校などに避難した。帯広市の避難所開設は35年ぶりで、「災害が少ない」とされた十勝では異例の大規模避難に。多くの自治体では1日以降、避難所は解消されたが、職員配置や避難者への情報提供などが運営面の課題として浮かんでいた。一方、被害の大きい新得や清水などでは依然住民避難が続き、町は長期化に向けた避難所の環境整備に取り組んでいる。

# 異例の大規模避難課題山積

26

帯広では35年ぶりに避難所を開設。深夜に住民避難が始まった（8月30日夜、北栄小）

# 職員配置、情報提供、健康… 長期化対応に「ルール必要」の声

川の水位を確かめようと避難所を離れる住民もあり、「河川の水位上昇を避難者に伝える仕組みが必要」との指摘も。幕別町内の避難所では、札内橋や札内清柳大橋が通行止めになつたなどの誤った情報が住民間で流れた。またペツト

締め出された  
ペツト連れ  
一部自治体では避難が続  
き、間もなく1週間を迎える。新得町では避難の長期化に配慮し、避難所になつてゐる新得小学校にマツトとして使える畳50枚を運び

足寄では避難所の運営のほか、土のう積みや河川の監視などもあり、24時間通じて対応に当たる職員も現れた。大野雅司総務課長は「長期化の場合、職員の健康管理も考えてシフトを組む必要がある」と話している。

約5万4000人に避難勧告を出した帯広市の避難所開設は、1981年の「56水害」以来。数十人規模だった所が多い一方で、「川が近く危機意識が高い地区では避難者が多かった」(総務課)。十勝川に近い東小学校には500人超が避難し、少人数の職員で食料の配布や駐車場誘導などに手間取り、「(職員の)対応が混乱した」(同)という。避難者への情報提供に戸惑った自治体もあり、士幌町の担当者は「避難所の人たがるが、常時張り付いている職員は被害の全貌を把握している訳ではなく対応につつこゝへする。

を連れた住民は、各地で集中避難を余儀なくされた。行政側は短期間でも住民の安全に配慮し、幕別町では保健師が避難所を巡回しては保健師が避難所を巡回し、保健相談に応じた。住民の自主的な行動も目立ち、士幌町では有志がみそ汁を作つて提供、音更町では中学生ボトル飲料水を配布するの手伝つた。音更町の寺山憲二町長は「住民の防災意識が高く、自助も培われて

長期化に備えた対策の必要性を指摘する。同町は給食センターによる炊き出しを行い、健康相談ブースを設けて避難者のケアに努めた。町の越後和希子保健師たは「避難者の健康状態の把握は難しく、受付時に確認できるよう表を作り直すなど改善策が必要」とする。ペット連れで避難所に入ることができず、駐車場で車中泊をする人もいた。苦情や大きなトラブルはなかつたが、車中泊にはエコノミークラス症候群の危険性がある。同町総務課の石川建祐職員担当主査は「ペット連れの避難者が増える」とも考えてルール作りを進めるところである。



【新得】一ヶ月で3泊4日、国民宿舎東大雪荘の渋谷潔料理長(59)らが4日、台風10号の大雨被害で指定避難所となつている新得小学

木を詠ぶ、湯がいの食を扱る舞つた。町内で唯一残る避難所で、5世帯13人が過ごしてゐる。同温室も大雨の影響

【新得】一ヶ月で3泊4日、国民宿舎東大雪荘の渋谷潔料理長(59)らが4日、台風10号の大雨被害で指定避難所となつている新得小学

木を詠ぶ、湯がいの食を扱る舞つた。町内で唯一残る避難所で、5世帯13人が過ごしてゐる。同温室も大雨の影響